

3-6					
主題	2つの認知症対応型通所介護の運営（破）				
副題	認知症ケアの見える化				
キーワード 1	認知症ケアの向上	キーワード 2	地域ケア	研究(実践)期間	27ヶ月

法人名・事業所名	社福) 台東区社会福祉事業団 みのわ高齢者在宅サービスセンター
発表者(職種)	大須賀豊(介護係長)、八島正人(相談員)
共同研究(実践)者	新井徳美

電話	03-5603-2245	FAX	03-5603-2232
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	平成6年7月開設し、台東区初の認知症対応型通所介護です。現在、台東区内には地域密着型サービスの認知症デイ5カ所あります。令和4年10月に法人の特養の大規模改修が終了し、「あさくさ」の認知症デイは元の場所に戻り、「みのわ」「せんぞく」の2カ所の認知症デイの運営に変更となる。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の流行が影響し、前年度同様に、デイサービスも利用率が低迷し、光熱水費等の高騰が事業運営に大きく影響しました。

令和6年12月に新規開設する施設での、認知症デイ2単位の運営に向けて、「みのわ」「せんぞく」の2カ所の認知症デイの移転準備をしています。一方で、認知症デイの経営改善と認知症ケアの質の向上については継続的な課題となっている。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

(研究の目的)

- 1・認知症デイで提供するサービスの質の向上(質の向上の見える化)
- 2・2つの認知症デイの経営改善(安定した運営方法の確立)
- 3・新施設に向けた新しい取り組みの実践(実践の具体化)

前回からの「研究の目的」をさらにバージョンアップし、より具体的な目的を設定し、取り組みを検証する。結果、最終的に新しい施設で隣り合わせになった場合を想定した2つの認知症デイの運営方法のあり方の確立、経営改善や認知症ケアの質の向上につながると仮説とした。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- 1・新施設に向けた新しい取り組みの検証
 - ・2つの認知症デイの令和4年度事業・取り組みの検証し、新施設での認知症ケアの見える化に向けて、計画した取り組みを精神科コンサルテーションで発表する。
- 2・安定した運営方法の確立
 - ・認知症デイの利用者は、ショートステイや施設入所などで、安定した利用率が維持できない。選ばれる認知症デイを目指し、サービスの質の向上の見える化を実行する。

3・施設で隣り合わせになった場合を想定した運営

- ・2つの認知症デイが新施設で一体的な運営になった場合を想定し、送迎方法や申し込み方法、提供しているサービス内容等、具体的にどのように運営していくか確立させる。

《4. 取り組みの結果》 分析結果

1・新施設に向けた新しい取り組みの検証

- ・2つの認知症デイの令和4年度事業・取り組みの検証の結果、まだ、共有化されていないところが多く、一体的な運営に向けて、さらにすり合わせしていく必要がある。

実践の具体化に向けて、2つの認知症デイの取り組みについて、定期的に精神科コンサルテーションの発表していくことで、2つの認知症デイですり合わせができた。

2・安定した運営方法の確立

- ・「選ばれる認知症デイとは何か」を、2つの認知症デイで常に検証し、サービスの質の向上の見える化を実行。具体的には、専門性とプログラムについて、家族やケアマネジャーに分かりやすく発信する方法を確立させる一歩となった。

3・施設で隣り合わせになった場合を想定した運営

- ・令和6年12月の2単位の認知症デイの運営を見据えて、これまで、別々に対応していた、送迎方法や申し込み方法、提供しているサービス内容等について、具体的に検討し形にしていく作業に入ることができた。

《5. 考察、まとめ》

これまで、別の建物で2つの認知症デイを運営していたものを、新たに2単位の隣あわせの認知症デイを想定した取り組みを実践してみたが、現実的に難しい面が多かった。

しかし、目的及び仮説と具体的に3つの柱を立て、具体的に組み組めたことは、職員全体で非常に前向きに検討することができた。

今後、家族支援も含めて、トータル的な在宅サービスの継続や、LIFEの活用や認知症BPSDケアプログラムを推進していく中で、認知症ケアの専門性の向上につながるように、まだまだ課題も多いが、認知症ケアの見える化の第一歩になるように努めていきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

特になし

《8. 提案と発信》

2つの認知症対応型通所介護の運営(破)認知症ケアの見える化はいかがでしたでしょうか。来年の12月には、一緒の建物で2単位の認知症デイの運営が始まります。昨年「アクティブ福祉」で研修発表の参加させていただき、意識的に、認知症ケアの見える化に取り組むことができました。新施設での取り組みも発表できるように努めていきたいと思っております。